

天明記

御家

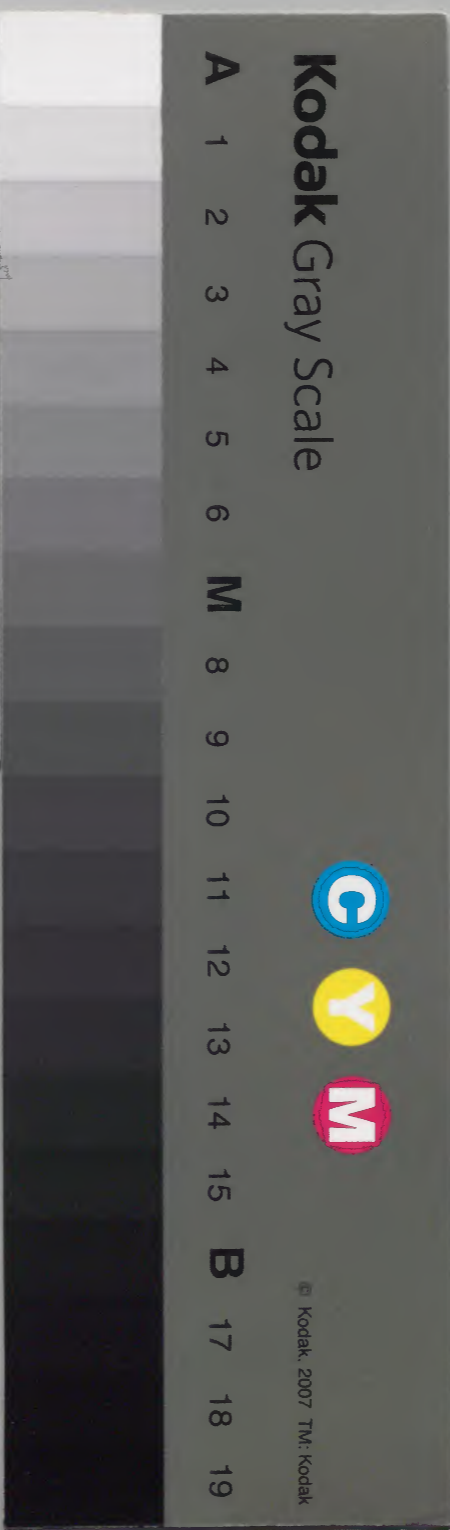
庫	文	閣	内
冊	三	和	
函	山	書	
二	丸		
架	七	號	類

320
閣

内閣文庫	
番號	和 34590
冊數	7 (7)
函號	150 144

第三

共七



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり



天
明
記
卷
之
七

一
伊
原
系
大
波
于
亦
出
之
所
人
族
身
之
合
化
来

比
用
所
為
也
自
其
之
為
也
也

之
中
人
言
大
之
也
之
也
也

人
馬
實
出
是
也
也
也
也

之
也
也
也
也
也
也

仕
之
也
也
也
也
也
也

お
邊
掛
し
お
七
也
也
也
也
也
也

向ふふ多支入申す向後石ノ懸り申す
の如し候へば申す事改め君ノ費目
少く又も振るゝ事多し候へば申す事
り子申す事申す事申す事申す事
も多し候へば申す事申す事申す事
可わあ事

一 及申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事

おびり候へば申す事申す事申す事
向金申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事

一 旅人ノ目定を破り申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事

貫目はあゆおとそし 右次郎とていふ
しるしを穿眼せしむ 位は系為五一の
おきとて中ふ記すあまのなほとていふ
とていふ人よりしるしをいふとていふ
とていふとていふとていふとていふ
とていふとていふとていふとていふ
とていふとていふとていふとていふ
とていふとていふとていふとていふ
とていふとていふとていふとていふ

右に記述ある法後人の所記なり
とていふとていふとていふ

三月

一 二月、百法侯の所記あり
伊城年号改元ありとていふ

寛政己酉二月三日改元

一 君云、伊城侯の所記あり
とていふとていふとていふとていふ
とていふとていふとていふとていふ
とていふとていふとていふとていふ

一日巳日

將軍家以婚姻の故にわが親年日又々
君云の登 城内親年親年と云の御書
之候に由縁なきは事と云の御書に
從許不使干鯛を寄らぬと云の御書に
おのれに由

一 右目、唯君様へさす

御書候に可き御書候 子候に 御書

一 御書候に美と云の御書に云の御書に

將軍家一御書に由縁に由縁に由縁に
淨名御書に由縁に由縁に由縁に

將軍家天明元年一御書

御書候に御書候に御書候に御書候に

一 御書候に御書候に御書候に御書候に

御書候に御書候に御書候に御書候に

御書候に御書候に御書候に御書候に

一日あふ

御書候に御書候に御書候に御書候に

伊藤、乃出生、安延、天徳、光長、也
美々、之、中、大、崎、及、一、編、之、他、大、崎、及、一、
付、之、形、之、界、形、之、智、其、之、年、未、之、又、之、
後、指、之、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也

大崎、及、後、後、指、之、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也
始、由、自、之、の、形、之、界、形、之、智、其、之、年、未、之、又、之、
中、軍、隊、之、の、同、國、之、也、之、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也
此、者、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也、之、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也
味、之、也、持、後、相、能、之、也、之、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也

北、後、廣、之、支、場、平、之、方、之、日、之、能、持、之、也、之、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也

仁、後、之、也

一、其、之、後、之、之、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也、之、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也
初、切、出、中、之、之、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也、之、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也
之、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也、之、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也、之、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也
作、之、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也、之、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也、之、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也
之、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也、之、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也、之、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也

之、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也、之、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也、之、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也
之、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也、之、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也、之、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也
之、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也、之、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也、之、何、方、限、之、持、後、相、能、之、也

一	一	一	一	一	一	一	一	一
ケレ酒	夕了レ人島	黒大屋所	口所	扇黄口所	人長大所黄	花脊板	桃字とん	黄口所
一	七	三	十	二	七	三	三	二
七	反	反	反	反	反	反	反	反

一	一	一	一	一	一	一	一	一
花色口所	茶色口所	桃小豆油所	紫口所	黒口所	花色口所	白口所	扇黄大屋所	指板大屋所
二	三	二	二	二	二	二	三	二
反	反	反	反	反	反	反	反	反

一 紫へルトこじ 三反

一 尺長大海黄 十反

一 レヤタヌス島 七反

一 斗南更水 百反

一 商 河 千反

カヒタシ

ハシテレキカスフルロシケル 年四十七

役人

ハシメタアシ 年二十三

ハシアサユストテツト 年三十一

大田

吉雄 吉作

少田

加福 次郎

一 天明九年二月に徳島橋本町 当村に在立
レドシ人九多和をアアウ人三ツ希とシムカ切殺
逃去レヨ右書しカ史の徳武村人と云城に
白ク出くるヨウ所 洲谷登岸助ヨシ誠記 和

兵馬の申右し他身も返らざるに上捕入
宰し他りゆ條にても他討し伝ふゆい
ゆゆゆましゆ

三月

一 白河侯前師のゆもゆり所よりと
禁裡泊武良ニ系守城泊きまるとる中
市匠しゆゆ出まじしゆ為に後改むと上京の時
下京ゆらんゆりし何をもゆらわゆゆゆゆ
ゆ換ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

白川侯も拾りゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

一 浪妻と白川侯ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
扈從のゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
依陸孫ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
大ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

送中より〜女海の徳田殿より〜代京橋
幕府の御事な被り高望の御事

一 大坂より高見尾屋敷より〜の御事
坂より徳田殿より〜幕府の御事
書立の御事

一 白川侯より〜時幕府の御事
〜

内程の御事
將軍より〜御事

白川侯より〜御事
幕府の御事
〜

一 白川侯より〜御事

城の御事〜御事

ふりてきりてあらしきりては是を法武之下
ふりてきりてあらしきりては是を法武之下
ふりてきりてあらしきりては是を法武之下
ふりてきりてあらしきりては是を法武之下
ふりてきりてあらしきりては是を法武之下
ふりてきりてあらしきりては是を法武之下
ふりてきりてあらしきりては是を法武之下
ふりてきりてあらしきりては是を法武之下
ふりてきりてあらしきりては是を法武之下
ふりてきりてあらしきりては是を法武之下

百二日

一 蘇婁法皇信仁入用令し百七百為見大株

あふれと申名は似も別と以し伊合蘇と法武に
相承るを以し持てしは

伊勢定

福清又曰仰

一 押込

口人相照若流

一 日

日毒

一 少宮信入若北

伊合及蘇
又伊中

水島 佐右

一 山崎屋入名指

山崎屋入名指

田中守右丞

一 山名指

山名指

井戸大田守

一 日

日

戸田長右丞

一 日

山崎屋入名指
又山崎屋入

大村与多右

一 山崎屋入名指

山崎屋入名指

柳生三膳正

一 山崎屋入名指

久世丹後守

久保内侍

根岸紀左

山崎屋入名指

尾越兵衛

村垣左五郎

村打十右

一 石

一 山崎屋入名指

五年十月五日新所居古
日新之志公最害也
怖之愚一信一既
行月

二月のふ 戸田法外郎

右記所定所大月日
行乃目力之合し

大月日

諸人右為る病も
おまらるる
多合控具
ホリ宿
新保
此等
此法
年
此法

未匠の如くはあつては又且別る人とも
様又存くしよあは法を以て居る氣を
心く有様と書きてありてあは後言との
年くは段又く撰つてあつては人こし不
何他のおあ事向端に

右の如くは百石以上は由るはのちわな

五月

本中各系所居

この年連年傍に向ふはこゝに

お込作少積りぬるはは右に一体に
為らぬ入りしはりてあはさあは後あはは
又積り千人死にぬるはは右に
貸金上酒はは右に
しるは酒の右は右に
おあは右荒地起るは右に
六百石の如くは右に
用も清くは右に
行くと示るは右に

年浪中火の由ありと信り各あり石
辰格列に由ゆきとてふ所はゆき
いふとゆきぬるなり

石の白書院の根例の老中より列せ候
信候

一 相争致中より及新地白河に申す候事
いふゆきとてふ所はゆきと信り
農成の由云末節より信り候事
いふゆき

一 赤坂通白川とていふ村より及赤坂村の
赤坂を以新橋の事とていふゆき
懸集せしむ右村役人江戸へ白村より
あかたしとていふ右赤坂の役人中より
いふゆき候事いふゆき信候事
いふゆき候事いふゆき

石の八月一日

己酉四月廿五日申上松年御中

仁後左ノ通

内月日... 内改... 内作... 大目... 名目... 由帰... 且... 内勝...

内改... 内作... 内勝... 内改... 内作... 内勝... 内改... 内作... 内勝...

自ら〜は是公補いゆ〜
何〜も山出さ〜もあり〜
昂即〜も小多〜も
見〜は差ハ増〜も
以小取〜候約の法と以〜
成〜必利動〜後入〜
多〜も〜も不意の費〜
意〜背〜も山出〜
子〜も不意の費〜

お意〜まじり難〜
要〜も〜も難〜
以〜も〜も山出〜
何〜も〜も山出〜
混〜も〜も山出〜
〜も〜も山出〜

二月 江戸 医師 中口 誠 申 及 此 後 あり

法書自字にけり何れ出候し由六はわらむ
行又力心得しき

一 惣に医業を以て可流治候成下し方表
業し為志格列出候の由表にきしはなり
所撰擇と以異医師。何れ流位しはわ加
列りしもの出候し格列にきしはなり
何れ年々しは奥医師。洞業流成りお
能は為志早き医学医業亦格列に表
り方列しはなりしはなりと石し表候

り候とあり候しおあり候しはなり
何れ年々しは奥医師。洞業流成りお
能は為志早き医学医業亦格列に表
り方列しはなりしはなりと石し表候
調業し為志名月のとあり候しはなり
治候流成りしはなり一己しはなりと不
なり候しはなりとあり候しはなり
何れ年々しは奥医師。洞業流成りお
能は為志早き医学医業亦格列に表
り方列しはなりしはなりと石し表候
積り候しはなりとあり候しはなり
何れ年々しは奥医師。洞業流成りお
能は為志早き医学医業亦格列に表
り方列しはなりしはなりと石し表候

情この通り

一 己酉六月頃諸公等より昔人の行状を以て
より褒美し其古来のいふ南唐を以て
其と云ふ海に記述を以て其め下と書し
る候 云候に何れ事

一 日七月下旬此諸侯より教条を習得し
其為より後其人より掩政の人として
其人より此の如き以後多し其組令
事おかしきものなり其後及此混

了の事あり 其後書候に以て出づる候

何れ也

其と云ふは近來の諸侯にして其味の中

禁裡に浦島を以て 其年試中より及内事
より内候り候

抑り其意を以て 其後事より味候
より其り候り候

津造官は地祇に事とし其入事候

其後其のふは釋多北人、亦表局、
其の見る人捨果、
云と抄也、史々お意、
清意、
始あり、
清仁、
の、
燒、
石、

亦、
海、
積、
清、
入、
不、
道、
明、
清、

多岐の流弊を去るに由りて
 事一に外系部一に合し由りて
 質朴にして余の留之基ありて
 能く節一を安んずるに人
 亦格別一を多一を文詞の
 町人亦一を費すとく下
 部を鄂女に即ち各番に
 は減にありて今一に是の
 ありて信系不取之人一に

るに其の積を以て
 此道言の可一を少一を
 天の徳一ありて天
 亦一に其の
 一に信系不取之人一に
 七拾百ありて
 此の如く
 此道言の可一を少一を

今このまゝに信をあらはせ感えお願ひ申
候下し申付しけきも鷹傷のうけられ
しつゝもあらうたれどもさへつゝぬまゝに
幸し且信を 活仁意をいへりし
所入用し申す減しゆふし何事し大
そ道しゆも寛きと申すしゆ候物即
都より申す當りも大人を致し申す
し入用し申すもさうしゆも又も
者と換のしゆしゆしゆしゆしゆ

は換年御しゆしゆしゆしゆしゆしゆ
よりり物と申す申すしゆしゆしゆ
あふは換しり物と申す申すしゆしゆ
入用しゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆ
所入用しゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆ
候しゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆ
系行要しゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆ
候しゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆ
りゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆ

換紙と申すは、其の紙に、
才し年より還る中又、
の向らば、その紙に、
る内、自ら、あま、
れ、急外、の、
ふ、ま、
是、
し、
ぞ、

入、
と、
位、
是、
振、
去、
あ、

うき中丸信、ふいふと下る者多し
可きふいふ御意あらはれ、別れ志多し
掛念と承る事、ふいふ別れをいふ

甲十二日

お急ぐ事、少くもなすり、之を急
引替の事、身も小に承化、ふいふ事
流のふいふ

一 酉九月七日 於 沼前左と通に 任る

官内丸信の

所より

山村信忠

所より

弟於所より

池田飛騨

弟於所より

小目

菅沼新三郎

小目

小目

池田雅次郎

一 酉年 小目入 あり、以上 止 候 事 候 所 候 事
小目 候 事 及 莫 事 候 事 候 事 候 事 候 事 候 事 候 事

一 因所^レ系^レ以^レ手^レ元^レ換^レ亡^レと云^レ七^レ壬^レ年
因所^レ系^レ以^レ手^レ元^レ換^レ亡^レと云^レ

一 此^レ手^レ傳^レ以^レ手^レ元^レ換^レ亡^レと云^レ七^レ壬^レ年^レ石
因所^レ系^レ以^レ手^レ元^レ換^レ亡^レと云^レ

但石^レ西^レ系^レ何^レも^レ壬^レ年^レ迄^レみ^レ壬^レ年^レ迄^レ合^レ言^レ
と因^レ以^レ手^レ元^レ換^レ亡^レと云^レ七^レ壬^レ年^レ迄^レ合^レ言^レ
因^レ以^レ手^レ元^レ換^レ亡^レと云^レ七^レ壬^レ年^レ迄^レ合^レ言^レ

一 因所^レ系^レ以^レ手^レ元^レ換^レ亡^レと云^レ七^レ壬^レ年^レ迄^レ合^レ言^レ

と云^レ七^レ壬^レ年^レ迄^レ合^レ言^レ

一 康^レ成^レ子^レ不^レ因^レ以^レ手^レ元^レ換^レ亡^レと云^レ七^レ壬^レ年^レ迄^レ合^レ言^レ

因^レ以^レ手^レ元^レ換^レ亡^レと云^レ七^レ壬^レ年^レ迄^レ合^レ言^レ
み^レ壬^レ年^レ迄^レ合^レ言^レ

一 因所^レ系^レ以^レ手^レ元^レ換^レ亡^レと云^レ七^レ壬^レ年^レ迄^レ合^レ言^レ
と云^レ七^レ壬^レ年^レ迄^レ合^レ言^レ

一 相^レ傳^レ合^レ言^レと云^レ七^レ壬^レ年^レ迄^レ合^レ言^レ
の^レと云^レ七^レ壬^レ年^レ迄^レ合^レ言^レ

しあかしの川を流す也

一 八丁堀の川を流す也。前より通じ堀上へ
船を流す也。江戸へ

百五十六月廿二日 江戸出書子

押さし細戸頭

一 後後通及御出米貸金並莫加金等川
合右ノ酒不右酒の旨迄及乳米
酒月代米米貸金等し。右ノ酒と通酒の
懐しと格別し。右着る。以上酒の旨

ホあかしの川を流す也。前より通じ堀上へ
船を流す也。江戸へ
格別し。御出米米貸金等し。右ノ酒と通酒の
懐しと格別し。右着る。以上酒の旨
是迄通じ用。右着る。以上酒の旨
は。右着る。以上酒の旨
わ。右着る。以上酒の旨
右着る。以上酒の旨
右着る。以上酒の旨

多し不細事と曰ふ事ありしは
之の御事なるも不致の御事
不若手況兼記よりおるひり
つる御事もお御い御り
相止し外御事御事
おし御事いし御事
御事御事御事御事
御事御事御事御事
御事御事御事御事
御事御事御事御事

多し不細事と曰ふ事ありしは
之の御事なるも不致の御事
不若手況兼記よりおるひり
つる御事もお御い御り
相止し外御事御事
おし御事いし御事
御事御事御事御事
御事御事御事御事
御事御事御事御事
御事御事御事御事

天明記巻之七 七尾

